

大正製薬百年史発刊

大正製薬は、大正元年に新しい年号に因んで命名された大正製薬所として誕生し、2012年10月に創業100周年を迎えました。

過去、「大正製薬80年史」「大正製薬90年史」を発刊してきましたが、100年という大きな節目に既刊の社史を検証しました。

その内容を抜粋し、直近10年の記述を加えた創業から100年の通史を、2014年3月に改めて編纂しました。



写真で見る—大正製薬の歩み—

本史では、大正製薬の歴史と先人たちの足跡を数々の写真で振り返ることができます。大正製薬グループ各社の社員には、そこから未来への「本業を通じた社会への貢献」を学びとり、また、社外の皆様には、本史によって大正製薬へのご理解を一段と深めていただくきっかけになれば幸いです。

● 百年史〈点描〉



- 1912(大正元)年10月、大正製薬所を創業。滋養強壮剤「体素」の成功で、成長を遂げる。
- 1928(昭和3)年、特約株主制を実施して株式会社大正製薬所設立。資金調達よりは、共存共栄の理念による強力な販売網の確立が主眼であった。翌年、大阪支店を再開設。1936年に旭区へ新築移転した(写真)。順調に業績を伸ばし、大正製薬の基盤と社風が形成される。
- 一面の焦土と化した東京、大阪で、大正製薬の本社・工場・大阪支店は奇跡的に戦火を免れた。戦後、製薬業界の技術革新が一気に加速。上原正吉の指揮の下、主力ブランドとなる製品群を次々と市場に送り出す。
- 戦後復興から高度成長の時代。民間放送開始とともに大量生産、大量販売の時代が始まった。1955(昭和30)年、ワシのマークを登録商標とし、卓抜な広告宣伝により、大正製薬の知名度が一気に上昇する。
- 前進上昇する社会風土のなか、1962(昭和37)年に発売した「リポピタンD」が空前のヒット。大衆薬メーカーとして揺るぎない地位を確立していく。
- 高田地区等に分散していた研究部門を統合する総合研究所が1974(昭和49)年に竣工。高度成長時代が終わり、長らく大不況のさなか営業体制の整備を図り、研究開発力の強化を軸に多角化への大きな一歩を踏み出す。
- バブル景気が到来。国際競争の時代を勝ち抜くべく、新たな経営体制の下、海外との事業提携、医療用医薬品事業の強化を推進していく。
- 1991(平成3)年に発売したマクロライド系抗菌剤「クラリス」は、適応の追加、製剤の改良を重ね、その後世界130カ国以上で販売されるに至る。
- 日本経済は長期停滞に突入。事業体制を見直し、「選択と集中」を押し進める。1999(平成11)年には、日本初の発毛剤「リアップ」、2009年には「リアップX5」と大型商品を発売した。2002年には、国内の医療用医薬品の販売・マーケティングを担う大正富山医薬品株式会社を設立する。

大正製薬を貫く理念

大正製薬は、上原正吉という希代の経営者を得て躍進、発展を遂げ、今日の経営基盤を築きました。正吉は「商売は戦い 勝つことのみが善である」「紳商」「正直、勤勉、熱心」などの言葉に代表される確固たる経営哲学で、大正製薬を力強く導くとともに将来を託す人材育成に尽力しました。これらの言葉は我々の胸中深く刻み込まれ、今後も決して色褪せない創業の精神です。

